

令和2年度第2回関西・高知経済連携アドバイザー会議

日時：令和2年10月27日 14:00～16:00

場所：シェラトン都ホテル大阪 2F「志摩の間」

出席：アドバイザー8名

議事：(1)説明

・関西・高知経済連携強化戦略の骨子（案）について

(2)意見交換

1 開会

2 知事挨拶

開会にあたりまして、一言御礼を申し上げたいと思います。本日は、アドバイザーの皆様、大変ご多用のところ、第2回目の関西・高知経済連携強化アドバイザー会議にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

また、常日頃、高知県との様々な連携に関しまして、多大なご支援をいただいておりますことを、心より御礼を申し上げます。

さて、前回の会議におきましては、この関西圏と高知の経済連携強化のために、私ども三つの柱の取り組みをご相談をさせていただきました。一つ目には観光振興、二つ目には食品などの外商の拡大、三つ目には万博あるいはIRとの連携についてでございます。

この点につきまして、前回の会議では大変活発にご議論をいただきまして、例えばコロナ禍の影響によりまして、人々の生活、価値観が変わっていく中で、先手を打った取り組みが必要ではないかといったご意見や、観光などに関しましては、高知ならではの「なぜ今高知か」というコンセプトを明確化して、しっかり発信していくべきといったご意見も頂戴したところでございます。

後ほど詳細をご説明させていただきますけれども、こうしたご助言もいただきながら、県の方もいろいろな形で既に動き始めています。一つには、三浦アドバイザーのお力添えをいただきまして、関西エアポートと実務者レベルの検討会を開催させていただきましたし、また、本日、午前中には大阪観光局と高知県、それから高知県観光コンベンション協会との連携協定の締結をさせていただきました。

本日の会議では、第1回目の会議でいただきましたご助言を踏まえまして、我々の方で経済連携強化戦略の骨子（案）を策定させていただきましたので、これについてご審議をいただき、またご意見を賜ればと考えています。

今後の段取りでございますが、本日いただきましたご意見も踏まえて、本年度末にはこの強化戦略を策定したいと考えております。県では、既に来年度の予算編成に向けた作業を進めており、本日の骨子に関して大筋のご理解がいただけましたら、これに沿って来年

度の具体的な事業の準備に入りまして、来年度当初から実質的にこの取り組みのスタートができるように、努力をしてみたいと考えています。

アドバイザーの皆さまには、様々な角度から忌憚のないご意見をいただけますことを心よりお願い申し上げまして、開会にあたってのご挨拶とさせていただきます。本日はどうかよろしくお願い申し上げます。

3 アドバイザー紹介

(司会：井上産業振興推進部長)

続きまして、本会議が初めての出席となりますアドバイザーをご紹介させていただきます。津田産業株式会社社長、そして一般社団法人大阪府木材連合会会長の津田潮様でございます。津田アドバイザー、一言お願いします。

(津田アドバイザー)

大阪府木材連合会の津田でございます。我々、木材の連合会でございますが、大阪の森林面積は5万7,000ヘクタール、全国最小でございます。高知県は59万5,000ヘクタールと大阪の10倍ということで、大いに高知県の魚梁瀬杉に期待いたしておりますので、よろしくお願い申し上げます。

それともう一つ、私のいところが竹葉亭といううなぎ屋をやっていますが、竹葉亭のうなぎが絶滅危惧種にあたるようで大変心配をいたしております。四万十川のうなぎにも期待しておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(司会：井上産業振興推進部長)

津田アドバイザー、ありがとうございました。

それから今回、高知県側で初めての参加となります幹部職員を紹介させていただきます。スポーツツーリズムなどを担当している部署になりますが、文化生活スポーツ部の副部長の山脇でございます。

(山脇副部長)

山脇と申します。どうぞよろしくお願い致します。昨日のドラフト会議で高知県の関連選手2名がドラフト指名されましたけども、いずれも阪神タイガースということで、地元はかなり盛り上がっています。今日は、どうぞよろしくお願い致します。

4 議事 (1) 関西・高知経済連携強化戦略の骨子(案)について

(司会：井上産業振興推進部長)

それでは、お手元の次第に沿いまして、会議を進めさせていただきます。本日の議事につきましては、関西・高知経済連携強化戦略の骨子(案)についてです。まず、資料全体

を私と観光振興部長からご説明させていただき、全部の説明が終わったところで、皆さま方からのご意見を頂戴するという形で行います。

それでは、第2回のアドバイザー会議の資料を1枚おめくりいただきたいと思います。少しリマインドになりますけれども、前回アドバイザーの皆さま方からいただいた主な意見をまとめたものが、この1ページ目となります。

一番上のところに三つのプロジェクトの共通項を整理しています。「with コロナ、after コロナを見据えた取り組みの実施」ということで、高知県としては、国民のライフスタイルや価値観の変化を前提とした取り組みのトップランナーとなるべきではないかというご意見を賜ったところです。

それから一つ目の観光推進プロジェクトにつきましては、まずは強みを生かしたイメージ戦略を確立すべきというお話をいただいております、データを分析してブランディングしていく、あるいは本物の高知を追求するワードを設定して、イメージ戦略を打ち立てていくといったご意見をいただいております。

それから、その右になりますけれども、ネットワークの活用では、先ほど知事からも話がありました大阪観光局との連携協定を本日締結させていただきました。お互いの強みを活かした旅行商品の開発・PRを行ってはどうかというご意見でございます。それから、関西エアポートの航空路線を活かした誘客戦略と、実務者レベルの検討会を既に設置させていただき検討を始めているところです。それからもう一つ、みどりのプラットフォームを活用した広域観光ルートを形成してはどうかというご意見でございます。これも後ほど溝畑アドバイザーからお話があるかと思いますが、こちらの方も「日本みどりのプロジェクト」ということで高知県も参加させていただき、今後一緒に取り組みをさせていただきたいと思っています。

二つ目の食品等外商拡大プロジェクトにつきましては、全般的に関西でこれまで培ってきたパートナーの皆さまと連携し、外商拡大を進めるといったご意見を賜ったと認識しています。その中で、特に林業分野につきましては、土佐材の特徴を活かした外商拡大をしてはどうか、あるいは森林環境譲与税の効果を捉えた県産材の外商拡大を進めてはどうかというふうなご意見もいただいております。

それから一番右のところでございますけれども、関西圏も含めオールジャパン、またはワールドワイドに輸出も含めて取り組むべき項目につきましても、様々なご提案をいただいております。例えば観光分野で申し上げますと、with コロナということもあり、デジタル技術を活用したバーチャルツーリズムなどのプロモーションの展開。あるいは農業・水産業・食品分野でもやはりデジタル技術を活用してライブコマース、Eコマースなどを強化するといった取り組み。それから林業分野では、新しい生活様式、DIY需要の拡大に対応した商品開発をしてはどうか。商工業分野では、輸出になりますけれども領事館を通じた輸出の拡大をしてはどうかといった貴重なご意見を賜ったところでございます。

次のページをお願いいたします。2ページは、関西・高知経済連携強化戦略の考え方と

構成ということで、中央の戦略の全体像、柱となります三つのプロジェクトは変わっていませんが、例えば観光推進プロジェクトでは、その下に戦略が三つありますけれども、前回は、柱1・2・3と提示していましたが、今回からは、戦略の1・2・3という形で少し再整理しています。

食品等外商拡大プロジェクトにつきましては、前回は柱2として、人材の確保と誘致の取り組みの強化という形で整理していましたが、いただいたご意見も踏まえまして、戦略2として、withコロナ時代に対応する商品開発や外商活動の推進という形に再整理しています。その他は前回お示ししたとおりでございます。

次のページから個々のプロジェクトの中身になります。まず、観光推進プロジェクトにつきましては、観光振興部長の吉村より説明させていただきます。

(吉村観光振興部長)

観光振興部の吉村です。皆さま、改めましてどうぞよろしくお願いいたします。それでは、資料に沿って説明させていただきます。

3ページが観光推進プロジェクトのまとめになっており、前回アドバイザーの皆さま方からいただきました意見を反映させています。資料中のアンダーラインを引いた部分のご意見を反映させた部分でございますので、この点を中心にご説明させていただきます。

左上の数値目標という欄で、前回、関西圏からの観光客入込数、右側の関西空港経由の外国人延べ宿泊者数という項目をお示しさせていただいた部分については、今回、令和5年の数値目標の値を設定させていただいています。但し、外国人延べ宿泊者数に関しましては、新型コロナウイルスの影響によりましてインバウンド観光の需要も大きく失われていますので、現在、改めて精査を行っており、数値目標につきましては、検討中にさせていただいていますことを、ご了承いただきたいと思います。

第1回会議の後に、先月2回にわたりまして、大阪観光局との間で実務者同士の意見交換をさせていただいたところでございます。

戦略1の「withコロナ、afterコロナを見据えた観光地の磨き上げ、仕組みづくり」に関しましては、特段の変更点はございません。コロナ禍においては、誘客振興にあたって社会の構造変化への対応なども大変重要になりますので、3番目の項目につきましては、9月県議会定例会で、新しい旅行スタイルに対応する屋外観光関連施設や、宿泊施設の整備を支援する新たな補助制度に関する予算を承認していただきました。安心・安全を提供する設備投資などの取り組みをスピード感を持って進めていくことにしています。

続きまして、戦略2の「より一層の誘客を目指した関西在住者を含む高知県観光の訴求」でございます。本日の午前中に大阪観光局と連携協定を締結させていただきました。この連携協定をはじめとして、大阪観光局とは戦略2、そして戦略3を合わせた連携をお願いいたしまして、例えば大阪の都市観光と高知の自然体験観光を組み合わせたツーリズムの開発などに取り組んでいきたいと思っています。

戦略2に反映した点に関してご説明いたしますと、前回、溝畑アドバイザーから「本物に出会う」ということを掘り下げていくべきだというご意見をいただいていますので、戦略2の2の国内に向けたセールス&プロモーションとして現在進行形で展開している「リョーマの休日キャンペーン」を記載しております。このキャンペーンは、本物の高知を楽しんでいただくということを意識したもので、「RYOMA」の頭文字を取りまして、「R」ロマン、「Y」やすらぎ、「O」美味しい、「M」学び、「A」アクティブという、こういう「RYOMA」に込めた思いや、溝畑アドバイザーのご意見を踏まえまして、どのように訴求していくかということについて検討を深めていきたいと思っています。

そして、この項目の(3)にデジタル技術を活用したプロモーションの推進と掲げさせていただきます。こちらは深野アドバイザーのご意見をもとにデジタルを活用した訴求に取り組んでまいります。今月15日には深野アドバイザーに高知にお越しいただき、本当にありがとうございました。その際、バーチャルツーリズムとショッピングとの組み合わせですとか、バーチャルならではのアングルでの映像の配信といったご意見をいただきましたので、プロモーションの企画に生かす方向で進めていきたいと思っています。

この項目の右側にあります5の森林等を活用したツーリズムの研究では、日本みどりのプロジェクト推進協議会の発起人として、大阪観光局と本県が名を連ねて、一昨日、東京で開催された設立総会とシンポジウムに知事が出席したところでございます。

その下、新たに、スポーツを通じた交流人口の拡大という項目を掲げさせていただきます。関西と高知を結ぶウェルネスツーリズムの開発にもつながるように、新たに項目を起こしたものでございます。関西は、プロスポーツ、アマチュアスポーツともに大変盛んであり、高知でのキャンプや合宿など、スポーツを通じた交流が続いていますので、合宿の誘致活動などを強化し、交流人口の拡大につなげていきたいと思っています。

次に、戦略3の大阪・関西万博を見据えた関西との連携によるインバウンドの展開でございます。(4)に新たにオリンピック・パラリンピックに向けて、大阪観光局等と連携した誘致プロモーションの実施を追加しております。

(5)の訪日旅行に関心のある方々に向けて、本県観光の魅力をダイレクトに伝えるプロモーションとあります。これは、本県独自にこれから展開をしていこうと現在、準備を進めている訪日旅行関心層にダイレクトに本県観光の魅力を動画などで配信していこうというプロモーションです。

この1、2、3のボックスの下段に2項目掲げさせていただきます。連携協定につきましては、今日、締結させていただきましたし、先ほどお話がありました関西エアポートとの間での実務者レベルの検討会につきましても、8月下旬から進めさせていただきます。

次の4ページをご覧くださいと思います。

今後、三つのプロジェクトごとに行程表を作成し、進捗管理していくことにしており、そのための例示として、観光推進プロジェクトを記載した資料になっています。

この表の縦軸が戦略1の具体的な施策に対応しており、横軸は時間軸となっています。例示している「地域の強みやポテンシャルを生かした「外貨を稼ぐ」観光地域づくりを推進」ということで、現在、高知県では、県内の地域連携DMOを中心としまして、外貨を稼ぐ滞在型の観光プランの策定を市町村、商工団体、宿泊施設、体験施設等、幅広い関係者の参画のもとで進めています。

プランの策定にあたっては、この下の方に三角形のピンクのボックスがありますが、「土佐の観光創生塾」を開講しまして、その中で先進エリアの実践者にも来ていただきながら、プランの策定を進めているほか、専門のコーディネーターを各地域連携DMOに派遣し、プラン策定のサポートをしているところがございます。こうした支援を行いながら、例えば、日本を代表する清流、その流域に点在する自然や産業、暮らし、歴史、文化といった、ここでしか体験できない滞在型プランの策定を進めていきたいと思っています。

滞在型プランが策定された後は、整備計画をまとめて、受け入れ環境整備などの観光地の磨き上げを進めていくとともに、今後、関西と本県を結ぶ広域周遊ルートの素材として提案もしてまいりたいと思っています。

今後は、各戦略の個別の施策ごとに行程表を作ってPDCAサイクルを回していきたいと考えており、PDCAサイクルを回すにあたって、具体的な内容をお示しさせていただきながら、アドバイザーの皆さまにご助言をいただきたいと思っています。

私からの説明は以上でございます。

(井上産業振興部長)

それでは続きまして、5ページをお願いいたします。食品等外商拡大プロジェクトでございます。

1番上の枠にありますように、近距離に位置し、歴史的にも深いつながりを持つ関西圏とのこれまでのネットワークを土台としながら、各分野の「経済連携をさらに強化」して、外商拡大の取り組みを進めようというものでございます。

戦略の一つ目としては、パートナーとの連携強化による外商拡大でございます。前回と少し変わっているところを中心に説明をさせていただきます。

まずそれぞれの分野で新たに数値目標を掲げており、例えば、農業分野の数値目標としては、関西圏の卸売市場を通じた県産青果物の年間販売額を、直近の令和元年の108億から令和5年には120億まで伸ばしていこうというものでございます。こういった形でそれぞれ数値目標を掲げて取り組もうとしているところでございます。

農業分野については、重点品目として、本県の基幹品目のナス、ニラ、ミョウガ、文旦等を掲げています。赤字で書いておりますところが変更点ですが、例えば、一つ目は関西圏の卸売市場関係者との連携をさらに強化しながら取り組みを進めていきたいと考えています。二つ目は、直接販売、「高知家の魚応援の店」あるいは高知県ゆかりの飲食店等とさらに連携して、販売の拡大につなげようというものです。

なお、先ほど4ページで見てくださいましたけれども、全ての具体的な施策につきましては、今後3年間のロードマップを作ることにしており、次回には、皆さまにお示しいたいと思います。

その下の水産業分野につきましては、数値目標を三つ掲げています。量販店等での高知フェアの開催回数、あるいは「高知家の魚応援の店」への年間の販売額、それから、関西の卸売市場関係者等を経由した水産物の輸出額ということで、三つの数値目標を掲げさせていただきます。

具体的な施策も、3、4、5とありますが、関西圏の卸売市場関係者との連携、そして外商支援体制の強化ということで県や市の外郭団体の大阪スタッフの拡充、さらには中国・東南アジアを中心とした輸出の拡大にも取り組んでいきたいと思っています。

次の6ページをお願いいたします。

食品分野につきましては、数値目標として、市の外郭団体の地産外商公社の活動による関西圏での成約金額を15億2,000万円まで持っていくことが目標になっています。重点品目としては、小売り用、業務用、幅広く対象にしながら、具体的な施策ということで、6、7、8、9と掲げております。

新しいところで言いますと9の高知県テーマの飲食店との連携ということで、高知県ゆかりのお店などと連携させていただいて、ショールーム機能の付与、アンテナショップ的な形で、お店と連携して取り組めないかと準備を進めているところでございます。

その下の林業分野でございますけれども、数値目標としましては、関西圏の土佐材出荷量を令和5年に3.1万m³まで持っていきこうというのが数値目標でございます。具体的な施策は10から13までありますけれども、前回ご意見をいただきました10番のところでは、特に木材利用の健康面へのアピールを意識しながら、試験研究機関等からの木材の効用に関する情報も収集しながら、そうした形でのPRができないか、現在検討しています。

それから13番ですが、これもご意見を賜ったところでございます。森林環境譲与税の効果を捉えた県産材の外商拡大ということで、関西圏の木材団体等と連携させていただき、県産木材活用に向けた提案を進めていきたいと考えております。

次のページをお願いいたします。

商工業分野でございます。こちらの方は、製造業、ものづくり系になりますけれども、高知県産業振興センター大阪事務所の外商支援による成約金額を目標に掲げて令和5年に6.7億円に持っていきたいと思っています。特に防災関連製品や、それらをはじめとする工業製品、あるいは技術を重点的な品目として定めて取り組みたいと思っています。14、15については、具体的な施策を記載していますが、関西圏の商社、あるいは包括協定企業の皆さまと連携した取り組みを展開して参りたいと思っています。

それから、戦略の二つ目でございます。withコロナ時代に対応する商品開発や外商活動の推進ということで農業分野、数値目標は先程の再掲になります。具体的な施策として二つ掲げています。一つ目は卸売市場関係者との連携強化ということで、オンライン料理教

室などを開催しながら、青果物の販売などにつなげたいと考えています。二つ目としては、WEBの販売サイトにより、販促キャンペーンなどを実施しながら、販売拡大に取り組んでまいりたいと思っています。

次の8ページをお願いします。

水産業分野です。これも数値目標は再掲になります。具体的な施策としては三つあり、卸売市場関係者との連携、そして、新しいニーズに対応した水産加工・冷凍保管施設の立地、既存加工場施設の機能強化の促進、等に取り組んでいきたいと思っております。

外商支援体制の強化については、オンラインを活用した外商活動、オンライン商談とかeコマースなどの取り組みをさらに進めていきたいということでございます。

食品分野の具体的な施策としては、地域に密着した量販店への販路開拓ということになります。小売店グループなどへのオンラインによる商談会や産地招へいなど、営業活動を強化し外商拡大につなげていきたいと考えています。

次のページをお願いいたします。

林業分野についての具体的な施策としては、先ほども申し上げましたように、健康面への効用を盛り込んだ提案型の営業の強化と、三つ目のポツになりますけど、DIY利用の増加など、withコロナの観点から、木造建築、あるいは木材製品へのニーズを収集して、新たな販路を開拓していこうというふうな形で考えております。

2の外商拡大プロジェクトにつきましては以上になります。

最後に10ページの万博・IR連携プロジェクトでございます。

一つ目が、関西圏を訪れた国内外の観光客に観光地・高知を訴求し誘客するというところで、具体的な施策については、前回と変更はございません。二つ目の関連施設での県産食材の活用については、具体的な施策の二つ目ですが、多様な食文化に対応した商品開発の促進ということで、今回、より細かく記載させていただいています。例えば、商品づくりに向けた伴走支援を強化する。あるいは、高知県の場合、県庁の中にジェトロを誘致しており、常日頃から連携した取り組みを進めているところですが、輸出対応の商品づくりについても、連携しながら支援していきたいと考えています。

三つ目の戦略3ですが、関連施設の整備にあたっての木材、これは木材等が正解かもしれません。木材等の活用というふうに読んでいただければと思います。万博・IR関連の一つ目としましては、関連施設での県産材利用促進に向けた提案を実施していく。二つ目としましては、関連施設の整備にあたって、県内企業の技術、あるいは防災関連製品などを活用していただけるよう情報収集や営業活動を行っていきたいと考えています。

資料についての説明は以上とさせていただきます。

4 議事 (2) 意見交換

(司会：井上産業振興推進部長)

それでは、ここから意見交換に移らせていただきます。まず、先ほど説明した資料10ペ

ージ、万博・I R連携プロジェクトでございます。今回は、時間の都合であまりご意見をいただけなかった部分がありますので、こちらについて、特に最近の動向も含めて、アドバイザーの皆さまにご意見をいただきたいと思っております。

どなたからでもかまいませんので、どうかよろしくお願いいたします。

(溝畑アドバイザー)

まず、I Rの動向を申し上げておきます。12月には、政府から基本方針が発表されることとであり、今のところ、申請時期は、来年10月から次の年の3月までとされています。開業については、万博のタイミングを狙っていましたが、物理的に難しく、恐らく2026年から2027年の開業を見据えて準備していくこととなります。

I R施設の開業により、今後、大阪は、日本の観光のショーケース、世界への発信拠点を目指します。I R施設が立地する大阪から日本の魅力ある各地域に送客することが重要なミッションになります。昨日、菅総理が、脱炭素・ゼロカーボン化を宣言されて、全てのソフト・ハード整備において、脱炭素・ゼロカーボン化が国策として行われると思っておりますので、そうなってくると、I Rについては、高知県と一緒に取り組んでいる「緑」や「環境」をテーマにした連携を生かせると思っています。

万博については、万博協会の方が来られていないので、ここで具体的に説明するのは避けられますが、ドバイ万博が終わると、いよいよ本格的に大阪・関西万博に向けた準備がはじまり、2022年頃までにハード整備、周辺整備をしながら、設計段階を終え、2023年、2024年にパビリオンの着工へと移っていきます。

先般、濱田知事と一緒に立ち上げた「日本みどりのプロジェクト」、そこに小泉環境大臣や環境省次官、林野庁長官がまいりました。小泉環境大臣からは、万博を見据えて、「日本みどりのプロジェクト」をぜひ応援していきたいというお言葉をいただきました。また、万博協会とも、万博に向けたプロジェクトの一つに位置づけてやっていこうということを確認しています。万博のテーマのうち、「いのち輝く未来の創造」という中に、緑のゾーンというのがございますので、そういう意味で、万博に向けての準備の過程、万博期間中、アフター万博を含めて、この中の大きな柱の一つとして、高知県がコミットしている「日本みどりのプロジェクト」は、非常に大きなテーマになっていきます。様々な施設整備や展示、イベント、それから万博に合わせて植樹をするという話も聞いており、そういうところで改めて日本の木材が非常に注目されてくることから、万博、I Rは、高知県にとって、情報発信、もしくは需要拡大のビジネスチャンスになるのではないかと考えています。そういうところも含めて、我々と協定を締結したので、この万博・I Rに、ぜひ高知県の持っているポテンシャルを生かせるよう協力していきたいと思っています。

(司会：井上産業振興推進部長)

大変心強いお声がけありがとうございました。

津田アドバイザー、よろしくお願いします。

(津田アドバイザー)

万博に向けては、夢洲という島を、現在埋めている最中です。埋め立て地である夢洲は軟弱地盤であり、パビリオン等で120から130の建物が上に乗るわけですが、あまり重い建物を載せると不等沈下を起こしたりするので、軽い建物である木造のパビリオンの建設が進みます。

大阪府木材連合会の大阪エキスポへの提案という資料を見ていただきたい。前回の1970年の大阪エキスポの写真を見ると、カナダのブリティッシュコロンビア館は50mの丸太を立てた大変ユニークなパビリオンとなっています。

大阪の森林は面積がたった5万7,000ヘクタールで、全国最小になりますので、木造パビリオン建設のための木材を高知県から送っていただきたいというのが、私たちの願いです。ということで、今後、連携してやらせていただきたいと思います。

(司会：井上産業振興推進部長)

ありがとうございます。貴重な写真までいただきましてありがとうございます。

その他ありますでしょうか。深野アドバイザー、お願いします。

(深野アドバイザー)

万博に関連して若干付け加えますと、万博の一つの役割は、「未来社会の実験場」であり、規制等に守られてできなかったことができるようになります。だから、今お話のあった木材の活用についても、建築基準法等の問題もたくさんあると思いますが、ぜひ、その辺は大胆に提案してみてもいいでしょうか。仮に、高知県でパビリオンを造らないにしても、積極的に提案したらいいと思います。また、こういうことに関して情報収集もされたいと思います。

それからもう一つは、建物もさることながら、70年の大阪万博と比較すると今回の大阪万博の会場面積は3分の1程度とスペースが限られており、限られたスペースの中でいかに面白いイベントを実施し、発信できるかがポイントになってきますので、文化的なものや祭りなど、色々なものがあると思いますが、素材の生かし方を改めて考えてみる価値があるのではないかと感じているところです。以上です。

(司会：井上産業振興推進部長)

ありがとうございます。西田アドバイザー、お願いいたします。

(西田アドバイザー)

最近の動向は分かりませんが、当時、この万博を開催するにあたって、中小企業

パビリオンみたいなものを造っていこうと、松井知事もおっしゃっていたと思います。お金をどう集めるか、まだ具体的な話がない段階ですが、今後、具体化すれば、中小企業の英知と技術を結集したパビリオンの、あるいは違う見せ方になるかもしれませんが、中小企業を主体にしたものが形作られると思います。私も協力させていただきますので、高知県の中小企業が、何らかの形で組み込まれる、そういう形が出来れば良いと思います。

あと1点、この万博・IR連携プロジェクトで、先ほど溝畑アドバイザーから状況についてご説明がありましたが、万博はコロナ禍においても期日どおりにしっかりやっていく一方で、IRは、国の動きや拠点をどうするかといったところがあり遅れている。この資料の万博・IR連携プロジェクトという一連の書き方で、関西・高知経済連携プロジェクトをやっていくべきなのか。それとも万博は万博プロジェクト、IRはIRプロジェクトというように、お互いの関係性は深いですが、少し分けたトーンで記載していくのも一つの策かと思います。

この万博・IRをセットにした打ち出し方については、いかがなものかなという気がしています。

(司会：井上産業振興推進部長)

ありがとうございました。また検討させていただきます。

(溝畑アドバイザー)

ちょっといいですか。

(司会：井上産業振興推進部長)

溝畑アドバイザー、お願いします。

(溝畑アドバイザー)

色々な見方があると思いますが、私どもは、万博・IRは大阪が世界的な都市になる舞台だと考えています。日本の観光のショーケースをつくる、この点において万博とIRは同一プロジェクトとして、2030年の大阪を見据えた一つの絵巻物のように考えており、そこに関西3空港の機能を一体化して、さらに鉄道も機能強化する。2030年、大阪が世界の顔になっていく。そのためのメインエンジンのプロジェクトだと考えています。我々としては、そういうことを明確に打ち出していますので、全て関連させてセットで機能強化をしていくという、その趣旨に従っていただいた方が良いと思います。IRにおいて若干スケジュールのズレはありますが、中長期的な視点に立てば大きな問題ではないと思っています。

2030年を見据えて、私どもの軸はぶれずに突き進もうと思っていますので、ご理解いただきたいと思っています。

(司会：井上産業振興推進部長)

ありがとうございます。その辺を十分に踏まえまして、検討させていただきます。
小林アドバイザー、よろしくお願いします。

(小林アドバイザー)

企業の立場として、この万博と I R を考えますと、ある程度、投資しなければ立派なものではないと思いますが、万博は半年間だけの開催であり、半年後に取り壊してしまうものに、大きな投資はできません。万博と I R を同時に行われるということが、我々としては一番良い形です。残念ながら諸般の事情でタイミングがずれてしまいましたが、コンセプトとしては、万博と I R が連続していければ、継続的に投資ができます。これは他の企業も一緒だと思います。

一つの例として、観光で考えますと、万博や I R には、たくさんのお客様が来られますし、来られたお客様が万博と I R を拠点にさらに旅行する。そう考えると、やはり万博だけ半年間開催して終わりにするのではなく、その後 10 年 20 年先を見据えて続けていくような方向付けが出来ればと思います。

ただ I R については、マイナスの意見を持つ方も一定数おられますので、きちっと話し合いをして、管理の仕組みをしっかりと作れば、特に問題となることはないと思うので、万博・I R を正面から見据えて、広域観光、地域観光の一つの軸としてやっていくことが、投資効率から考えても得策だと思います。

それからもう一つ、脱炭素を考えると、例えば、木材での発電が試みられていますが、建物を建てるだけではなく、ありとあらゆる木材の活用方法を考えていく。美術での活用もできますし、家を建てる素材にもなります。また、やりようによっては鉄材よりも強い木材というものをつくることもできると聞いたこともあります。高知県がそういうものに絞って万博の中で訴えかけていけば、一次産業としての漁業、林業、農業、いろいろ活用できるものが見つかると思います。

それからコロナ禍で人の住み方が変わってきています。鉄道は大きな影響を受けており、乗る人がどんどん減ってしまい、一時は、対前年 90% 減という状況でした。今は半分近くまで戻ってきています。

かつては、朝、みんなで出社し、終わったら帰りにちょっと 1 杯飲んで家へ帰る。それに対して、わざわざ職場に行かなくても仕事ができるテレワークやワーケーションという考え方もできていますので、そういうことも含めて高知の良さを打ち出していくことができると思います。

私はどちらかというと自然派です。我々人類は、自然の中に生まれてきたので、やはり原点は、土や緑、森林がいいのか、水がいいのか、その部分を、何かコンセプトとして打ち出していければ、今の時代、共感を得やすい部分があるという気がします。

高知県は、そういう面で好位置にいますので、ぜひ万博などの色々なチャンスを使って発信していただければと思います。

(司会：井上産業振興推進部長)

ありがとうございました。西田アドバイザー、よろしくお願いします。

(西田アドバイザー)

すみません。誤解しないでいただきたいのですが、I Rを否定している訳ではありません。打ち出し方として、例えば資料10ページの戦略3では万博・I Rが常に2つセットになっていますので、この辺りの書き出し方を、「万博としてはこう捉える」、「I Rとしてはこう捉える」、そして「連携するところはこうする」といった、そういう形が良いのではと申し上げています。商社に勤めていましたので、プロジェクトの重要性も分かっています。

(司会：井上産業振興推進部長)

ありがとうございます。少し書きぶり等も整理をさせていただきたいと思います。先ほど脱炭素の話がありましたが、皆さま方からご意見をいただきまして、高知県としても脱炭素社会のトップランナーになれるよう、何とかいろいろ施策についてこれから練り上げていきたいなと思っておりますので、引き続きご意見をいただければと思います。

ここからは、万博・I Rに限らず全般でご意見を賜ればと思います。どうかよろしくお願いをいたします。

では、三浦アドバイザー、よろしくお願いいたします。

(三浦アドバイザー)

今日の新聞等で、我々、関西エアポートが万博に向けて計画していた主力ターミナル旅客施設の拡張が、万博開催に間に合わないという報道がされました。かなりネガティブな報道のされ方で非常に不本意であり、この場をお借りして、この件についてご説明させていただきます。報道されているとおり、コロナ対応で、当初計画していた以上に様々な調整事項が発生しているのは事実であり、それに伴い着工時期や準備に少し時間がかかっているという状態です。万博までにしっかりと受入態勢を整えることに変わりはありませんので、この場を借りて補足させていただきます。

ただ、正確には、我々が商売として、免税店エリアを少し広めにつくろうとしていたのが、最終工程にありまして、これが万博開催には少し間に合わないかもしれませんが、少なくとも、万博に向けての受け入れ体制、お客様に快適に来ていただくためのゲートウェイ機能はしっかり完成させていきますので、そういうふうにご理解いただければと思います。

先程、小林アドバイザーからもご指摘されていたとおり、万博は、きっと世界に向けて

の情報発信の場になると私も考えています。万博やその後のきっかけを上手く使いながら、ビジネスとしてどうやって関西圏でお金を回していく形につなげていくかが重要になります。我々空港としては、ゲートウェイとして、ファーストパビリオンのつもりで、お客様が空港に着いたときから万博のを感じられる情報発信ができるような、そういうターミナルをつくりたいと思っています。

今日の時点で具体的な構想があるわけではありませんが、むしろ5年後に向けて、高知県の皆さまが発信されたいようなことも含めて、関西からの発信を、我々としてどうサポートできるかを考えたいと思っていますので、この場を借りてご紹介をさせていただきたいと思っています。

そういう中で高知県としては、先ほどご指摘にあったとおり、発信するときの焦点がばやけないように、どんなブランドをつくり上げて訴えていくのかという、ここがきっと大事なポイントになると思います。「本物」という言葉も既にあるとおり、高知県の皆さま自身がもう高知の価値に関しては、十分分析されて作り上げられていると思いますので、そういった点だけ忘れずに、万博に向けて打ち込んでいくことが大事だと思います。その点、我々もできることがあれば協力させていただきたいと思います。

IRに関しては、我々も継続的な発展を期待しているところです。

今回のプロジェクトの中で、私個人として、非常に素晴らしいと思っていることが、「外貨を稼ぐ」ということがコンセプトになっている点です。地方自治体の方からこんな言葉が出てくるのは、私にとっては一つの驚きであり、非常に感銘した点でございます。まさしく、このIRは関西圏で外貨を稼ぐ典型的な場になるだろうと思っています。外国からやってきてくれた方に外貨を落としてもらおうという観光による稼ぎ方、農産物だとか水産物とかを輸出して売っていきこうという外商による稼ぎ方の2パターンで整理されていると思います。

特にIR、MICEと言った方がいいかもしれませんが、MICEは、皆さんご存知のとおり、外貨を稼ぐ場、世界中のバイヤーや世界中のフェアが集まる場でありますので、外貨を稼ぐ場が関西にやってくるんだという感覚で、これから1年後、2年後と実行していくことが、そのまま万博・IRをきっかけとして花開くというふうな連続性を持っていると思っています。この流れの中で、具体的な「タマ」込めというか、「タマ」づくりをこの5年間の中で、しっかりと準備することが、凄く大事なことだと思います。

(司会：井上産業振興推進部長)

貴重なご意見ありがとうございます。それでは、豊原アドバイザー、よろしくお願ひします。

(豊原アドバイザー)

農業分野ですが、令和5年の数値目標が120億円との記載がありますが、正直に言いま

すと、令和5年まで辛抱できるかなというところですよ。既に今年から目標の120億円というものに向かって取り組んでいます。例えば、高知県の野菜・果物・花きを合わせた生産量が、現状、9万トンぐらいです。それを、令和5年に10万トン以上確保できるのかと、いつも疑問に思います。正直に言って生産者は高齢化し、生産者の平均年齢は高知県でも66歳、67歳かと思います。令和5年になったときには、平均年齢が70歳になる中で、これだけの生産量を確保するのは難しく、出荷できなくなるのではないかと考えています。

とにかく、来年度から関西で120億円というものを、まず達成したいと思っています。それに向けて、高知県の生産量については、常に10万トン以上を確保することが一番のポイントだと思います。

今年はコロナの影響もあり、百貨店や飲食店は、かなり厳しい状態ですけれども、スーパーやドラッグストアの売上は伸びています。今年特に変わった、今までと違う傾向としては、巣ごもり消費の拡大という点で、一般家庭の消費量、特に野菜の消費量が増えている一方で、業務筋の関係、飲食店で使う特殊な野菜は厳しい状況が続いています。そういった中で、高知県は業務筋向けの青果物以外にも、一般家庭が消費する野菜も作っています。高知県の野菜の旬は、この10月から年明け5月までですが、夏場にもしっかりと品物があるということで、非常に売りやすい産地です。

先ほど話をしましたけれども、どの産地も生産量が減るのは間違いないと思います。その中で、高知県にはもっともっと踏ん張っていただきたいと思っています。高知での青果物の単収をさらに上げて、日本全国で商いができるように取り組んでいただければと思います。

(司会：井上産業振興推進部長)

ありがとうございます。西岡農業振興部長、何かありますか。

(西岡農業振興部長)

農業振興部長の西岡です。豊原アドバイザーのご意見に感謝いたします。

農業が抱える環境は、生産者の高齢化や放棄地の拡大など、非常に厳しいものがございます。このような中、施設園芸が中心の高知県としては、生産性の向上にしっかりと取り組んでいきたいと考えており、現在、next次世代型施設園芸農業を掲げて、ハウスの中で環境制御のデータを測り、それをしっかりと分析しながら、作物の生産性を上げていく取り組みを進めています。併せて、担い手の確保や新規就農者の増大等にも取り組んでいるところでございます。

先ほどお話のありました販売額のみならず、生産量の拡大についても、高知県全体で、これからも取り組んでまいりますので、ご支援、ご協力をお願いできればと思います。よろしく申し上げます。

(司会：井上産業振興推進部長)

小林アドバイザー、よろしくお願いします。

(小林アドバイザー)

今、私どもでもワーケーションの取り組みを具体的に進めています。このことを大企業に提案し、実際にワーケーションを行ってみますと、大企業のトップが一番向いているなと感じます。

結局、ジタバタと無駄な行動はしたくない。また、別に動かなくても、同じようなビジネス効果が得られるのであれば、そちらの方がいいじゃないか。それと同時に、もう一つ、家族と一緒に時間を共有し、様々な経験・体験ができる。こういうところがワーケーションの良さだと感じています。さらに、もっと自然と親しみたいと思っているが、やむを得ずできていないという部分があるのではないかと感じています。

だからそれをもう少し深めて、グループの旅行会社である近畿日本ツーリストを通して、長期ステイの旅行商品を提案できればと思います。今までの旅行は、バタバタと短い期間に、できる限りたくさん場所に行き、その間、素晴らしい体験をたくさんして、帰ってきて疲れたと、こういう感じが旅行とされていましたが、今はそうではなく、ゆっくりと過ごすことにより、旅先の文化や生活、自然、産業などを総ざらひ的に体験できるようなプランが求められています。

そう考えると、結局、住むということに繋がります。一生懸命働いて、街のマンションに住んでというよりは、違う住み方があるのではないかと感じます。確実にそういう動きがあります。ぜひ高知に移住しませんか、一度来てみませんかと伝える。それが、長期ステイとワーケーション、テレワークへとつながっていくと思います。

ぜひ、街の人に高知で住んでもらい、高知の良さを体験してもらい、そして、高知で仕事を見つけてもらうということも一連の流れの中で提案し、その途中で、ワーケーションの提案もする。それから長期滞在の旅行も提案するし、短期で2日間ほどの旅行も提案する、そういう提案ができれば、高知の良さをアピールできるのではないかと感じます。

ワーケーションをしようと考えたら、そういう施設が要りますが、別に泊まることのできればそれで良くて、ワーケーションをやりたいという施設、旅館やホテルとタイアップして合わせ技でやっていくと良いのではないかと感じます。

本当の高知の良さをベースとして訴えていくという考え方が大事だと思います。

(司会：井上産業振興推進部長)

ありがとうございます。津田アドバイザー、お願いいたします。

(津田アドバイザー)

ワーケーションについてです。私は大阪生まれの大阪育ちですが、大阪が私の故郷という感じはしません。しかし、高知に来ますと、ここがまさに故郷だなという気がします。

なぜそうなのかと考えると、やはり素晴らしい自然、海、太平洋がある。また四万十川も素晴らしくきれいです。また、森林もあり大きな木も生えている。やっぱり高知はそういう自然をもっと売り物にしたら良いと思います。

高知の森林について、一つ提案があります。ここに大阪府木材連合会が作成したスギのNL Tというパンフレットがありますが、これを見ていただきますと、スギNL T、Nail-Laminated Timberと書いています。これは、釘で木を縫い、一つの木のかたまりであるマスティンバーを作っているものです。特色は、NL Tにより国産材の大量活用ができることです。メリットとしては、先ほどの高知県の説明にもありましたがCL Tと同等の高い強度があるほか、製造に伴う大規模な設備が不要なことです。これは工場で釘を打つだけでできあがりますので、簡単で設備も要りません。また、もしも火事になった場合でも、接着剤を使っておりませんので毒性のガスは出ません。もう一つのメリットは、造形の自由度がある点です。少しずつずらして張るとカーブが出ますので、造形の自由度があります。

これは言わないように言われていますが、単価はCL Tの3分の1程度ということで、大阪府木材連合会や日本ツーバイフォー建築協会では、このNL T (Nail-Laminated Timber) の普及を進めています。

次のページを見ていただきますと、カナダや北米では100年以上の実績があり、向こうの大きな建物でどんどん使われていることが分かります。その次のページを見ますと、木造の大きな建物が日本や世界でもトレンドとなっていており、こういう建物の材料になっています。その次のページ、これは家の中に現しでNL Tを使用したもので、NL Tが部屋の中から見えるわけですが、非常に自然な感じがします。また、天井にも使えますし、床の構造にもなります。

次に載っていますが、これはツーバイフォー協会からNL Tで準耐火構造大臣認定や木造建築新工法性能認証を取得したというニュースが入ってきましたので、これからどんどん普及するだろうと期待しております。

ということで、高知の魚梁瀬杉でこのNL Tを作っていただいて、これを大阪または関西、全国に提供していただければ、大規模木造住宅の建設に大変役立つと考えていますので、ぜひ一緒に、このNL Tを生産するのを研究いたしたいと思っております。よろしくお願いいたします。

(司会：井上産業振興推進部長)

ありがとうございました。NL Tについて川村部長、ご回答をよろしくお願いいたします。

(川村林業振興・環境部長)

林業振興・環境部長の川村でございます。今、津田アドバイザーからご提案があったNL Tについては、非常に低コストで大規模構造物が建築できるという可能性を秘めたもの

として認識しています。高知県としても素材の提供に関し、協力してまいりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

(司会：井上産業振興推進部長)

橋爪アドバイザー、よろしくお願いいたします。

(橋爪アドバイザー)

水産分野について説明させていただきます。まず、関西圏の量販店での高知県フェアに関しましては、弊社では、近畿圏の大手量販店やチェーンスーパー、業務筋、業界最大手の回転寿司店などと、現在進行形で取り引きをさせてもらっています。従いまして、期間限定になりますが、大手回転寿司店にお願いして高知県フェアを実施することは十分可能だと思っています。また、量販店での開催6回という目標については、何度でも可能だと思っていますし、こちらはやっぱり養殖魚、天然魚と両方いけるかなと思います。

また、新しいニーズに対応した水産加工については、スライスなのか真空なのか、いろいろ可能性はあると思いますが、今後、色々とテストして探していきたいと思っています。

輸出は、目標数値5.5億円、これは弊社の昨年売上でみますと約3億、今期上期売上で約2億円ありますので、これは全然問題ない数値だと思っています。アフリカやエジプトにも結構輸出していましたが、コロナの関係や、エジプトの寄生虫の問題もあり通関が難しい状況が続いています。ただ、中国への輸出は再開しており、徐々に戻ってきている最中ですので、これからも、高知県の天然魚の取り扱いを増やしていきたいと思っています。

また、高知県は海岸線が長いので、養殖に適した環境だと思います。黒潮がまともに当たり、水温も高いのでより良い魚が生産でき成長も早い。また、天然魚だと、佐賀関のアジやサバが有名ですが、高知県の土佐清水の魚もそれに匹敵すると思っています。台風が多いところですので、前にも一度ご説明をさせていただいた浮沈養殖、つまり沖合に生け簀を沈めて養殖する方法が普及すれば、魚の生産量も増えてくると思います。これについては時間と投資が必要となりますが、何とかお互いに頑張って、それぞれ取り組んでいきたいと思っています。以上です。

(司会：井上産業振興推進部長)

ありがとうございます。水産分野の目標達成に非常に力強いエールをいただいたと思っています。溝畑アドバイザー、お願いします。

(溝畑アドバイザー)

実は私、30年前に大分県庁に出向しまして、当時大分県の平松知事と一緒に「一村一品運動」を展開しました。人口120万人の大分県が、どうやったら目立つか、知事と日々検討しまして、例えば、アジやサバのブランディングでは、佐賀関ではなく「関あじ・関さ

ば」とネーミングしました。焼酎も「下町のナポレオン」と名付けたり、それから、とにかく知事が映画に出て、私も吉本興業と組んで、役場の職員を吉本興業へ出向させて、どうすればメディアに取り上げてもらえるかを徹底的に研究しました。つまり商品の価値、これはブランディングです。だから、高知もある意味ローカルだけどグローバルなものを、どうやってつくり上げていくか、やっぱり発信を意識した方が良いと思っています。

実は、11月10日に阪神タイガースの藤川球児の引退試合（対巨人戦）がありまして、ここにはメディアが集まりますので、ここで濱田知事に登場していただき大賞を渡す、これは全国ニュースになります。藤川球児が「高知をよろしく頼む」と一言言ったら、阪神ファンが全員来ます。

また、例えば、12月には『天外者』、五代友厚の映画が上映されます。これは、三浦春馬の遺作であり、きっと人気が出ます。この映画で、五代友厚が一番薫陶を受けたのが坂本龍馬です。要するに、日本の歴史を動かした五代友厚を通して、12月には、また坂本龍馬ブームが起こると思います。

ということは、11月と12月は、全国的に高知の発信力が高まるチャンスであると思います。そういう意味で11月と12月はチャンスです。高知がどういうところであるということのエッジが効いた形で発信するチャンスだと思っています。私どもとしても、ぜひ協力させていただきたいと考えています。

また、ここに書いてある「日本みどりのプロジェクト」は、先ほど私が申し上げた、脱炭素社会の実現が世界的な課題になっています。これを菅総理が宣言して、さらには小泉環境大臣が言った言葉の中に、脱炭素社会への移行と循環型経済（サーキュラーエコノミー）への移行、分散型社会、がありました。まさに小林アドバイザーがお話された風景です。これからはもう「緑」、「自然」に戻って仕事をする、移住する。小泉環境大臣はこういう社会が来ると訴えているわけです。

「緑」という話が出始めている中で、京都大学の生物学の方が、生態系が一番維持されているのは高知県だとおっしゃっていました。つまり、里山、里地が一番残っているのは高知県になるので、本物の「緑」が残っている日本の聖地として、「どうやってこういった里山を育ててきたのか」、「どうやって里山と交流してきたのか」、「どうやって里山を楽しんできたのか」、歴史や文化をしっかりと分析して、それを世界に向けて発信して欲しいと思います。

やはり、歴史や文化を語らないと本物は見えてきません。里山、里地があるからこそ四万十、仁淀川の清流が生まれた。皆さんがおっしゃっている木材も、農業も全ては里山、里地です。この部分をこれから2、3年かけて、しっかりとエビデンスとともに、このみどりのプロジェクトの中で、世界の人々に対して、我々は世界の中でこの里山を一番大切に守ってきたと発信する。そこに全てのコンテンツがぶら下がってくる。濱田知事と一緒に取り組みを進めていく中で、これが高知を語るのに最もふさわしいところと思っています。今後はエビデンスを深めて、歴史的背景を紐解いていく作業をお願いします。

たいと思います。

あと、ここに居る全員、我々は何と言われようとも、高知県より他の県が良いと言われても、我慢強く高知の良さを発信し続けて、シェアしていくことが大事になります。

(司会：井上産業振興推進部長)

ありがとうございます。ぜひ高知をよろしく願いいたします。西田アドバイザー、よろしく願いします。

(西田アドバイザー)

今、溝畑アドバイザーが言われた高知の発信力、これがすごく大事になります。三井物産に勤めていた頃、高知の先輩がおられまして、俺は現代版坂本龍馬だと自負されていて、土佐っぽの話をしょっちゅう聞かされました。聞かされているうちに本当に高知が好きになりました。皆さんがそれぞれに高知を発信したら本当にそういう流れが出てくると思います。しつこく発信し続けることです。

前回の会議で領事館を通じた輸出拡大の話をしました。大切なのはつなぐことだと思います。高知の物や企業を関西の企業につなぐ。もう少し広げてアジアにつなげていく。そのつなぐ役目のために使える機能や手段は選ばずに利用する。その一つに領事館や、あるいはジェットロがありますので、企業をうまく繋いでいく役目が行政ではないかと思っています。幸い大阪には総領事館がたくさんあります。繋ぐということをまず考えて経済や産業の拡大を目指して行ってください。

その中で具体的に三つほど申し上げたいと思います。

一つ目は、付加価値を付けること。これは何も商工業分野に限らず、ある物をそのまま流すのではなくて、加工して付加価値を付けていく。全ての分野でそうだと思いますが、付加価値を付けて商売をしていく。その一例として、高知の物を売るのではなく、持っている技術やノウハウを売る。つまり、その技術やノウハウを人とセットで、いわゆる技術援助契約という形で売る。高知の企業は、例えば3年間の経営資金を見込んだ収益をベースに技術提携・援助契約を提携し、それを財源として新たな商品・技術を開発する、そういう商売形態をぜひ考えていただきたいと思います。しっかりサポートさせていただきたいと思います。

二つ目は、商談や見本市、展示会をオンライン化すること。先ほど総領館の話しましたが、この前、県の方をシャムインド総領事にご紹介、双方の企業交流促進の意見交換を行ったところ、タイミングよく高知県が11月5日に見本市を開催することになっていた。そこに早速、インド総領事が行くことになった。その時にインド総領事が開口一番に言われたのがインドとオンラインで商談できないかということでした。インド総領事から、そのような話を聞くとは思わなかったので少し驚きましたが、世界中がウイズコロナ・アフターコロナの中で、見本市そのものがオンライン形式に変化してきています。

今後、見本市や展示会、リアルのイベントは、オンラインに移行していきます。特に高知は地の利が良くないので、それをオンラインなりで解消していただきたい。できることからでいいと思います。既にインド側は、準備が出来ているので待っていると言っていました。特にチェンナイの主にインド中小企業で構成する「インド日本商工会（IJCCI）」では、日本の中小企業の紹介を早くやってほしいと要請を受けており、高知の企業の情報を知りたいとの発言もありました。ジェットロはチェンナイにもデリーにも事務所がありますので、通訳だとかそういったツールはジェットロに頼んで一緒にやってみてはどうでしょうか。それから、いわゆるデジタル化、あるいはネットワーク化に、ウイズコロナ・アフターコロナを契機として取り組むこともぜひ考えてもらいたい。

三つ目になりますが、国の通商政策についてです。今、国が積極的に EPA なり FTA を結んでいます。インドとも 2011 年に締結しています。インド側の市場アクセスとしては、もちろん機械関係、一部、既に実施しているものも含めて、機械部品関係などの関税は 10 年後に当たる来年からほとんどゼロ（低関税）になります。逆に農産物でも、盆栽や長芋、モモ、イチゴ、花卉などには関税が 30% 程かかっていますが、多くの産品で関税が撤廃、軽減されます。もちろん、インドからも日本に入って来る品物も関税が撤廃、軽減されます。すなわち、国内で売りたいくても海外からどんどん物が入ってくる、そういうより厳しい競争状態になります。日本の通商政策、特にアジア政策の動きをしっかりと見ながら貿易に取り組んでいかなければなりません。

マレーシア、フィリピン、インドネシア等とも日本は 2 国間協定を締結しています。競争相手は国内だけではない、海外の企業も日本市場にどんどん入ってくる。貿易自由化の中でグローバルな競争に勝っていかなければなりません。出来る限り応援させていただきます。

補足になりますが、資料の中で、特に最後の方や食品分野の記載部分で前掲など重複する箇所があり、同じ表現、施策の紹介などが何度も出てきますので、工夫次第で紙面も省略できて見やすくなるのでご検討頂ければと思います。以上です。

（司会：井上産業振興推進部長）

ありがとうございます。少し表現の仕方はまた工夫をさせていただきますが、商工の関係がありますので、沖本部長一言お願いします。

（沖本部長）

商工労働部長の沖本です。早速、前回会議でご指導いただいたことが実現しまして、11 月 5 日に本県で開催するものづくり総合防災展にインド総領事がお越しいただくことになりました。実はインドには高知県の会社で「太陽」という農機具の爪を製造している会社があります。非常に縁も深まっているところで、非常にいいタイミングでご紹介いただいたと思っています。

また、先にお亡くなりになられました李登輝総統が坂本龍馬の大ファンで、高知に何度もお越しいただきましたし、台湾で龍馬会を発足してくださったという縁もございます。さらに先般新聞で、台湾の漁業のルーツが、高知からの移民によるという話があり、それをもっと詳しく調べようとの動きも出ているようです。また、今朝のNHKニュースで、日本の留学生がアメリカやイギリスではなくて、台湾に留学していると報道されていた。我々としては、台湾をターゲットにしたいと考えており、日本の友好国であり、親日派も多いところですので、ぜひ台湾の総領事をご紹介いただきたいと思います。何とぞよろしくお願いたします。

(西田アドバイザー)

今まで横浜と福岡でしかやっていなかった台湾企業の研修生を受け入れるプロジェクトを台湾関係者に働き掛け大阪府も2年程前からスタートしています。日本語が堪能で優秀な台湾の企業の方々が研修に参加しますので、ぜひ高知でも受け入れてもらったら良いと思います。

(沖本部長)

よろしくお願いたします。

(西田アドバイザー)

インドは、北はイスラム文化で南はヒンドゥー文化と全然違います。僕のお勧めは南です。その辺もまたゆっくりお話させてもらいたいと思います。

(司会：井上産業振興推進部長)

ありがとうございました。では、深野アドバイザー、よろしくお願いたします。

(深野アドバイザー)

あまり時間もないので手短に。まずこの間は大変お世話になり、ありがとうございました。やはり高知を語るためには、高知に行ってみて、味わってこない駄目だということで、大変いい経験をさせていただきました。そして、県庁の方ともいろいろと意見交換させていただきましたけども、早速デジタルに通じたバーチャルツアーといますか、そういうことも検討されていまして、これはものすごく早いなど大変感銘を受けました。

初めから完璧なものを目指すのは難しいので、できることから、どんどんチャレンジして情報発信すると良いと思います。それから、もう一つはリアルとデジタルの融合です。例えば、デジタルで消費者にカツオのタタキを焼いているところを見せて、買ってもらったら、それがそのまま家に送られてきて、美味しいものが食べられるといったことができると、インパクトが大きいと思います。ぜひ、デジタルとリアルの融合についても検討し

てみてください。

それから、木材の活用の話が随分出ましたが、馬路村に行かせていただいて、いろいろ美しい森を見て回りました。先ほど皆さまからご提案があった、これまでとは違う木材の使い方について、どんどん実験されたらと改めて思いました。今後、万博に向けて、もっと色々と出てくると思いますので、ぜひそういった木材の活用にも裾野を広げていくような取り組みを、他の木材県とも連携しながら進めていただければと思います。

最後に、中国から東南アジアのマーケットについては、漁業のところで話が出ましたが、多分、他の地域よりも早く経済が動き出すと思っています。先んずれば人を制すと思いますので、ぜひ先駆けておやりになった方が良いという気がします。もし、何か手伝えることがあれば、またいろいろと考えたいと思います。以上でございます。

(司会：井上産業振興推進部長)

貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございます。津田アドバイザー、よろしくお願いします。

(津田アドバイザー)

先ほど、坂本龍馬の名前が出てきましたが、高知県には高知龍馬空港があって、大阪周辺には、伊丹空港、関西空港、そして神戸空港の三つの空港があります。陸路を車で走るのが楽しいですが、空の便をたくさん増やしていただいて、もっと簡単に行き来できるようになれば、大阪と高知の間での人の往来がもっと増えると思います。

また、高知と大阪は海でつながっていますので、今度の万博には、ぜひ海から大阪へ来ていただきたいと思います。

先ほどのパンフレットを見ていただきますと、これに真ん中辺りに菱垣廻船のことを載せておりますが、「海の時空館」というものが大阪にはございます。この菱垣廻船は、400年前に日本の水運で使われていて、西宮や灘の酒を大阪から江戸まで運んでいました。この船を20年前に大阪市が復元して、今は「海の時空館」というミュージアムに飾っています。この写真は、時空館に飾る前に、大阪湾を2度試験帆走しているものになります。その次のページが、進水式の写真です。もちろん400年前の船ですのでモーターはついていませんので、タグボートで引っ張り出しているところです。

我々の計画では、万博に合わせて、この船をもう1度時空館から引っ張りだしてきて、大阪湾を帆走させたいと考えています。これにまた西宮や灘の酒を積んで、高知県まで持っていきますので、高知県からぜひ知事に乗っていただきまして、カツオのタタキを積んで大阪まで運んでいただきたいと思っています。

ということで、海路、水路、空路、三つの移動ツールで、大阪と高知をもっとつなぐことができれば大変うれしく思います。

(司会：井上産業振興推進部長)

ありがとうございます。

(豊原アドバイザー)

大阪の中央市場で一番多く貼られているポスターがあります。それは高知県のポスターです。毎月13日は「土佐の日」ということで、色々なイベントを実施しています。実は僕も高知大好き人間です。高知県はどの産地よりも市場の中でアピールしている県になっています。もし土佐の日のポスターが必要であれば、送らせていただくので、活用してほしいと思います。以上です。

(司会：井上産業振興推進部長)

ありがとうございます。今後ともどうかよろしく願いいたします。

(三浦アドバイザー)

先ほど、海外からの玄関口という話をしましたけれども、国内においても空港は重要な務めを果たせると思っています。足下では残念ながらコロナの影響で、ジェットスターやフジドリームエアラインズがいろいろとご苦勞をされていますが、どこのエアラインも高知というエリアに関して、もともとはポテンシャルを感じていたはずで、その中でも飛行機の力をきちんと考えて、動線を引かれていたことは事実ですので、今後、環境が整ってくれば改めて期待できると思います。

そのときに、関西とのつながりとして、一つ参考になるのは、近くにある和歌山県の南紀白浜空港という空港です。南紀白浜空港がいろいろと新しい動きをしているのは多少聞き及んでいると思いますが、南紀白浜空港では先行してワーケーションに取り組んでいます。当時私も実は同じ空港運営の世界にいましたので、和歌山県からの相談もありまして、南紀白浜空港の活かし方に関してディスカッションをしたことがありました。

同じ関西の空港として、協力できることはやっていこうという中で、南紀白浜空港は、JALの羽田便をうまく活かせていない状況にありましたので、東京のマーケットをご覧になるのもいいんじゃないかということ意見を意見として申し上げました。そういう中で運営を担うこととなった新会社が、そのマーケットに目を付けて、東京のマーケットへ営業活動に行き、見事にワーケーションを切り開かれました。

飛行機は、ある程度の距離があるところこそ、鉄道や道路よりも優位性が高まるというのも一つの事実でございますので、高知龍馬空港の活かし方としては、ワーケーションの動きを注視し、都会で暮らしながらも、自然も一緒に共有できるような楽しみ方が今後できるようになれば、国内マーケットで、もしかしたら伸びるかもしれないと思い、お伝えさせていただきました。

そういったところも含めて、実務者協議会を活用した具体的なプランとか知恵出しを引

き続きやらせていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

(司会：井上産業振興推進部長)

ありがとうございます。引き続きよろしくお願いいたします。

もう少しお時間ありますけれども、そのほかご意見よろしいでしょうか。

本当に貴重なご意見を賜りまして、ありがとうございます。ブランディングにあたっての本物の緑や、脱炭素、それからワーケーションといったたくさんのキーワードをいただきました。これまでいただいた意見を踏まえて、今後、まずは来年度当初の予算に向けて、それぞれ事業として具体化していきたいと考えています。年度末には戦略という形でしっかりとりまとめて、また皆さんにご提示させていただきたいと思います。

(溝畑アドバイザー)

11月10日の藤川球児の引退試合については、もう少しでチケットが売り切れになると思います。場所は、阪神甲子園球場です。阪神タイガースと巨人の試合です。

(吉村観光振興部長)

先ほど溝畑アドバイザーがおっしゃっていただいたように、11月10日の阪神タイガース対読売ジャイアンツ戦には、「関西・郷土高知に感動をありがとうナイター」と冠を付けさせていただき、引退試合に華を添えていきたいと思っています。阪神球団側のご厚意もありまして、冠を付けさせていただくほか、メインビジョンやアナウンスの活用、横断幕とのぼり旗の設置などの演出もしていただけることになりました。

それから、知事から藤川球児さんに対して、「高知県くろしお感動大賞」を授与させていただくというスケジュールを組まさせていただきます。

(司会：井上産業振興推進部長)

最後に、今後のスケジュールについてご説明をさせていただきたいと思います。

第3回のアドバイザー会議は、3月26日の金曜日に大阪で開催する予定ですので、よろしくお願いいたします。それに先立ちまして、来年の1月中旬頃をめどに、本日もいただきましたご意見とか予算などの議論を踏まえまして、具体的な事業の内容、それから行程表なども皆さま方にもう一度、改めて個別に訪問させていただいてご意見を賜ればと思っております。今後の日程等につきましては、改めて調整もさせていただきたいと思いますので、またご協力をよろしくお願いいたします。

それでは会議の最後に、濱田知事より一言ご挨拶を申し上げます。

5 閉会（知事挨拶）

閉会にあたりまして、一言御礼を申し上げます。本日は皆さま方、大変お忙

しい中を時間を割いていただきまして、第2回目のアドバイザー会議にご参加をいただきましてありがとうございました。多岐にわたりまして、ご提案あるいはご助言をいただきまして、本当にありがとうございます。

万博・I Rに関する最新の情勢をお教えいただきますとともに、自然を軸とした高知の魅力、これをしっかりと固めて発信していくことの重要性、こういったものもご教示いただきました。

さらに、各専門分野にわたりまして、極めて具体的にご提案とご助言をいただきまして、本当にありがとうございました。今回の会議の中で具体的に例えば数値目標のあり方とか、この戦略の中での位置づけあるいは表現などについていただいたご指摘に関しましては、ただいま産業振興部長の方から申し上げましたように、予算編成の中で検討させていただきます。また年明けには個々にご説明をさせていただいて、年度末には、最終的な戦略として固めたいと思っております。

また、特にこの機会にお礼を申し上げたいと存じます。そもそも戦略づくりにお知恵をいただきたいということで、開催させていただいたこのアドバイザー会議でございますが、本当に皆さま方には、各分野において、極めて具体的にご教示をいただいたり、それぞれの分野の人脈を活かしていただいて、人との引き合わせ、ご仲介をしていただきまして、具体的な形になるようなところまで、戦略づくりに先行していろんな取り組みを応援していただいておりますことを、改めて御礼を申し上げたいと思います。戦略づくりは、一応、今年度で一区切りということにはなりますけれども、今年度中はもちろんでございますが、今後も末永く高知のことをご愛顧いただき、また応援いただければということをご改めお願い申し上げます、私の御礼のご挨拶とさせていただきます。

本日はどうもありがとうございました。

(司会：井上産業振興推進部長)

それでは、以上をもちまして会議終了させていただきます。本日は本当にありがとうございました。